

入 館 時 間 午前9時～午後4時(観覧は午後4時30分まで)
休 館 日 毎月第2・第4火曜日(祝日の場合はその翌日)
入 館 料 一般(学生含む) 300円、小中学生100円、団体200円(20名以上)

お 願 い ※下記についてはご遠慮ください
携帯電話の使用 写真・動画の撮影 展示物に触る 飲食 喫煙 傘の持ち込み ペットの連れ込み

外宮周辺図

■せんぐう館へのご来館は、外宮参拝者用駐車場をご利用ください。

■神域内にお手洗はありません。駐車場周辺お手洗をご利用ください。

■季節によって交通規制が行われます。事前にご確認ください。

伊勢市ホームページ
<https://www.city.ise.mie.jp>



広域アクセス

▶お車でお越しの場合

名古屋から 東名阪自動車道・名古屋西IC — 伊勢自動車道・伊勢西IC (約120km、約1時間30分)

関西方面から 名神高速道路・吹田IC — 伊勢自動車道・伊勢西IC (約175km、約2時間10分)

伊勢自動車道・伊勢西ICから県道32号線(約10分)

▶公共交通機関でお越しの場合

名古屋から 近鉄名古屋駅 — 「近鉄特急」乗車 — 伊勢市駅(約1時間20分)
JR名古屋駅 — 「JR快速みえ」乗車 — 伊勢市駅(約1時間45分)

大阪から 近鉄鶴橋駅 — 「近鉄特急」乗車 — 伊勢市駅(約1時間40分)

京都から 近鉄京都駅 — 「近鉄特急」乗車 — 伊勢市駅(約2時間)

伊勢市駅(外宮方面改札口下車)徒歩(約8分)

せんぐう館
<https://www.sengukan.jp>
〒516-0042 三重県伊勢市豊川町前野 126-1
TEL : 0596-22-6263
FAX : 0596-22-6264

ホームページでは展示内容や企画などの詳細を掲載しています。

せんぐう館 検索



式年遷宮記念

せんぐう館

SENGUKAN MUSEUM

伊勢神宮・外宮



神嘗祭

【かなめさい】

1年でもっとも重要なお祭り。
新穀をお供えし神恩に感謝と祈りを捧げます。



年間1,500回以上

祭

日本の気候風土に合った作物「お米」は、天照大神が日本人の主食にするように授けられたものであると伝えられ、糧として人の命をつなぎ、生活を支え、国の営みの根本をなして現代に至ります。いつまでも変わらない神の恵みに感謝の気持ちを捧げること、それが「おまつり」です。

【展示室1】瑞穂の国



今野可啓「斎庭の稲穂」
ゆにわ

伊勢神宮は365日、
毎日が「おまつり」。

日別朝夕
大御饌祭

【ひごとあさゆうおおみけさい】

朝夕の2回、毎日欠かさず神様のお食事をお供えするお祭りです。





20 年に一度

神宮式年遷宮

【じんぐうしきねんせんぐう】

神宮式年遷宮で行う 3 つのこと

神宮式年遷宮は 20 年に一度、正宮に隣接する御敷地に新宮を建て、天照大神にお遷りいただくお祭りです。その準備には 8 年の歳月をかけ、社殿や神宝などの調度品をすべて古式のままだに新しく調え納めます。1300 年にわたり続けられてきた神宮式年遷宮は、日本の精神文化の中心にある神道の継承とともに、我が国の伝統・文化、そして技術を後世へ伝える大きな役割を果たしています。

神宮で
最も重要なお祭り
「神宮式年遷宮」が
現代に伝えること



【展示室 5】
外宮正殿原寸大模型

社

神宮式年遷宮で行うこと
1
社殿造営

新しいお宮を建てる

式年遷宮では社殿を新しく建て替え、皇室と国の平安を祈ります。いつまでも新しく変わらない瑞々しい姿を保つと同時に、神明造という日本古来の建築技術を現代に伝えています。

普段は目にすることのできないもの、

立ち会うことのできない瞬間に

ここで出会える！

宝

神宮式年遷宮で行うこと
2
御装束神宝の調製

御装束神宝を調え納める

御装束神宝は国産の材料を用いて当代を代表する匠たちの最高の技で作られる、我が国の伝統工芸の精華です。技術の発展がめまぐるしい時代にありながら、後世に残すべき伝統の技や匠の精神を継承しています。

神宮式年遷宮で行うこと
3
遷御の儀

新宮へお遷りいただくお祭りを行う

式年遷宮で中心となる祭儀「遷御の儀」は、天照大神に新宮へお遷りいただくおまつりです。100 名をこえる神職が渡御御列をなし、静寂に包まれた中、奉仕にあたります。



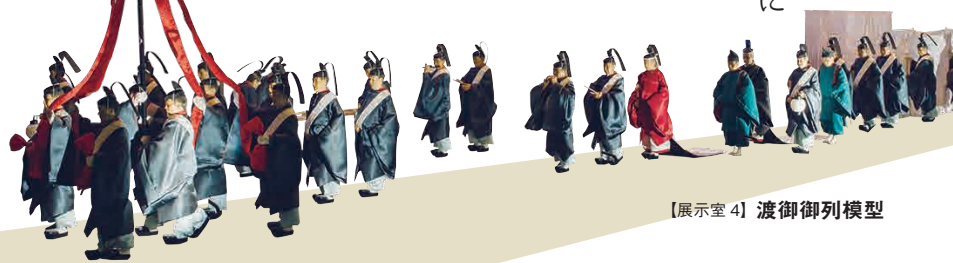
【展示室 3】
御装束神宝の調製工程



※展示は時期によって異なる場合があります。



包まれる
厳粛な空気
静寂と



【展示室 4】渡御御列模型

200 年計画
森の営み

一度の遷宮で必要とされるヒノキ約10,000本を育成するために、神宮では200年の計画にもとづき山づくりが行われています。古代より絶え間なく繰り返されてきた神宮の営みは、伝統の技を継承するとともに、日本人の祈り、心のふるさとを未来へ向けて守り受け継いでいます。

